

Letters

Arpak

レターズアルパック

VOL.210 ISSN 2432-5295

特集

おとなり

C O N T E N T S

- ◆ 特集：【おとなり】 ……01
 - ・おとなりの国「韓国」の伝統集落で昔の生活様式や文化に触れる ……02
 - ・となりの国からみた日本 ……03
 - ・おとなり同士の沿道の不動産オーナーが連携するエリアマネジメント活動 ……03
 - ・おとなり同士困った時こそお互い様の精神で ……04
 - ・アマチュアの視点が都市を変革する！？ ……04
- ◆ 今、こんな仕事しています ……05～08
- ◆ うまいもの通信 ……08
- ◆ 近況&イベントのお知らせ ……09～10
- ◆ 新人紹介 ……10
- ◆ まちかど ……裏表紙
 - ・風水により計画された村～韓国の歴史的集落 河回村と樂安邑城

(写真) 光州全南革新都市 (韓国) 撮影: 坂井信行



特集 おとなり

都市計画ではコミュニティの視点が大切といわれます。
田園都市、近隣住区、ジェイコブズ、パタン・ランゲージ、
ニューアーバニズム、コミュニティデザイン、コンパクトシ
ティ、…。

近代以降の都市計画で思いつくキーワードには、コミュニ
ティとのつながりが強いものが多いです。

「コミュニティ」とは、地域性を共有する共同体のこと。

「おとなり」どうしのつながりです。

ところが近年、アソシエーションとして区別されてきたテー
マによるつながりや、SNSなどを介したバーチャルなつな
がりにまで、その概念が広がってきています。

うかうかしていると「おとなり」も「時空を超えたおとなり」
などという、にわかにはイメージしにくい概念へと拡張され
てしまうかもしれません。

それはさておき、今号では場所と時間を共有する、伝統的「お
となり」をテーマにしてみました。

編集委員会



おとなりの国「韓国」の伝統集落で昔の生活様式や文化に触れる

山道未貴
地域再生デザイングループ



この歳で初めてとなる海外は、おとなりの国「韓国」で、伝統的な集落である安東市の河回村と順天市の楽安邑城に行きました。

両集落とも1980年代に韓国の歴史の集落に指定されており、伝統的な家屋やお祭り、しきたりなどの歴史文化が残ることから年間100万人以上が訪れる観光地になっています。

世界遺産である河回村は、蛇行し



城壁から眺めた楽安邑城民俗村

た川が集落を囲み、風水をもとに集落が構成されています。川の対岸の丘から一望することができ、その美しさに感動しました。また、1キロメートルほど離れた場所に「観光団地」と呼ばれるお土産店や飲食店が集まっており、集落まではそこからバスで向かいます。約10年前に住民らが動き出し、集落内が荒れないようにと観光客の車の乗り入れを制限し、商業地との分離を進めてきました。現状としては、集落内にもカフェやお土産店があるため徹底はできていないようです。

集落内には、土塀で囲まれた瓦葺きや瓦屋根の家々が立ち並び、農地も点在し、道は観光客が歩きやすいようにと整備され拡幅されています。所々に当時の面影が残る路地裏のような、道幅の狭い道もあり、歩いていて楽しくなります。道端には、住民が手入れをしている花が咲き誇り訪れた人を楽しませてくれます。

半数近くの家屋は日本でいう民宿を営んでおり、その中でも、宿泊した宗家は、四方が建物に囲まれ中心に中庭があり、集落の中では身分の高い人が住むお屋敷です。部屋の入口は、かがんで入らなくてはならないほど低く、広さは4〜5畳ほどの



河回村の集落内にあるお土産店

コンパクトな空間です。床からはオンドルのじんわりとした温かさが伝わりとても心地良く過ごせました。また、宿泊先のお母さんからは、手作りの伝統的なお菓子をいただきました（日本でいう落雁やお饅頭のようなもの）どれも見た目が美しくとても美味しかったです。

道中の高速道路から見える風景は、おびただしい数のマンションが乱立する都市部と田畑の中に数多くのビニルハウスが立ち並び農村部の区分が明確で、そのコントラストがとても印象的でした。農村部においては農地や工場の屋根に太陽光パネルがあり、その点においては日本と同じような景観の特徴がありました。

楽安邑城は城壁に囲まれた集落で、ドラマのロケ地としても有名です。集落内には、当時の生活の様子を再現した展示があり、テー

マパークのような雰囲気は漂っていません。半数以上の家屋は民宿や体験場として活用されており、河回村に比べて観光色が強い印象を受けました。一方で、多くの住民が集落に住み続けており、庭先に野菜や洗濯物が干してあったり、軒先きに椅子が並べてあったり、居住者の生活がにじみ出ている様子も見られました。

日本において伝統的な家屋が残る観光地では、通り沿いにお土産店や飲食店が立ち並び観光を生業とする住民が多く、その通りの裏側に日常生活が広がっています。一方で今回訪れたおとなりの韓国の集落は、元々、農業を生業としており、農業と生活文化が一体となった景観を形成していますが、現在は兼業農家も多く、観光地ならではの商いも増加しています。観光を生業とする住民と農業を生業とする住民とのバランスが大事だなと感じました。



お母さん手作りのおもてなし

となりの国からみた日本



朴延
地域再生デザイングループ



韓国国立文化殿堂の5.18 光州民主化運動を実感できる展示空間「5.18は未だ終わっていない」未解決のものに真実を問う。(2018年5月撮影)

私はおとなりの国、韓国から来日し、神戸と福岡で10年以上日本に滞在、神戸大学に留学して、両国の農村の研究をしました。

学位取得後、建築学会農村計画委員会の幹事として「日韓交流会」（日本建築学会農村計画委員会＝韓国農村建築学会）に関わっています。また多数の日本の都市と農村、歴史的集落の交流イベントに参加するなど、日本と韓国を比較する機会が多くありました。

外国人の視点から日本をみると「人に迷惑をかけない」、「列を並ぶこと」、「災害の時もルールをよく守る」、「落とし物をしても見つかる」、「店の店員さんが親切」などは他の国ではあまりみられない羨ましいところがあります。まちづくりの現場に参加した際にも、「住民らの参加度が高い」、「自分たち自身で積極的に活動する」、そして、そこには「中心人物がいる」、「盲

目的に補助金だけを目指さない」、「都市と農村の差が激しくない（生活水準、教育など）」などに驚きました。

日本は近年、過疎高齢化・人口減少ため産業の従事者の不足を補うためなどの理由から、年々外国人の移住が増加しています。（現在外国人人口約250万人）。グローバル化社会において、多文化共生の課題を掲げており、なんらかのカタチで変化をしようとしています。

しかしながら日本は、「内向きになって外に出よう」とい、「すべての物事を日本の常識で考える」、「いいことも悪いことも流す」（写真は韓国視察で「間違っているところを直そうとする」民主化運動の教訓）など、これまでの生活全般、社会活動で感じたイメージもあります。多様な文化・国籍の人が暮らす日本は、かなり閉鎖的となりの国のことをあまり知らないと感じました。

「島国だからしょうがない」、「日本はそういう国」で完結するのではなく、周りのことを知ることは重要であると考えます。相手のことが理解できないと誤解や偏見が生まれてしまい関係は悪循環してしまいます。これは日本だけの話ではなく、となりの国の課題でもあります。周りのことを知ることは次世代へ繋げる大事な要素ではないでしょうか。

おとなり同士の沿道の不動産オーナーが連携するエリアマネジメント活動



絹原一寛
都市・地域プランニンググループ



ミナミの御堂筋沿道の地権者で作る「ミナミ御堂筋の会」では、御堂筋イルミネーション事業への協力や、モデル区間整備・社会実験への参画など、実績を重ねています。

今年も、先行整備された千日前通以南モデル区間の北側、千日前通以北く道頓堀川までの区間において、側道閉鎖の社会実験が実施される予定です。当会は地権者の立場で協議会に参加し、実験がスムーズに進み、本格整備につながるよう、コーディネート役割も果たしていきます。

発足から3年を迎え、会の活動が認知され、新規加入会員も増えました。ミナミ御堂筋沿道のおとなり同士の不動産オーナーがつながり、沿道で一丸と



なつてまとまる土台ができていますが、一つ、悩ましい問題が出ています。

昨今は、インバウンド活況に伴い不動産市場も高騰し、海外の投資ファンドが沿道の物件を所有・管理するケースが増えており、こうしたエリアマネジメント活動の必要性を理解してもらうことが難しい。すぐ「隣」に位置していても、距離がなかなか縮まらない状況です。

これからは東京オリンピックなどが控え、歩道拡幅の空間再編整備は一気に進むと見込まれます。6月には、当会としてめざすべき将来の方向をビジョンにまとめました。

エリアマネジメントは世界のスタンダード。海外の投資家とも目標を共有し、連携関係を築けるよう、活動を広げてまいります。

※アルパックはミナミ御堂筋の会の事務局をお手伝いしています。
※昨年度の社会実験の概要や、会のビジョンは、アルパックホームページからご覧になれます。



おとなり同士困った時こそお互い様の精神で

丸井和彦

公共マネジメントグループ

早朝に発生した阪神・淡路大震災では、隣近所の多くの人が協力し、助け合う「共助」により人命を救った事例が多く報告されています。

6月18日に発生した大阪府北部地震は月曜日の朝8時前ということもあり、通勤・通学途でないしは、勤務先・学校で揺れを感じたという人も多いのではないのでしょうか。

震災当日、京都〜高槻〜大阪を結ぶ鉄道は夜半まで不通が続いたため、淀川を挟んだ「おとなり」のまち、枚方では、高槻・茨木方面へ歩いて帰宅する人が多くみられました。道中ではスマホで地図を見ながら歩いている人もいて、災害時は普段以上に情報が必要となってきます。

そんな中JR高槻駅では、駅で足止めされている人のために、地元の大学生有志がコンセントと携帯電話の充電器を提供



枚方から高槻・茨木方面へ歩く人々（枚方大橋）



地震当日の夕方、量販店にてポンペと水の品切れを表すピラ



充電ボランティアの案内

する、「充電ボランティア」を行っていました。大学の発電機を借り、自宅からコード付きタップ、携帯電話の充電器を自宅から持ち寄ったとのこと、学生はほとんどが下宿生。自らも被災している中、困ったときはお互い様の精神でしょうか。ボランティアは夜遅くまで続けられ、少し充電してほかの人に譲る、という光景もあつたようです。

誰もが情報をスマホから得る時代で、スマホはただの連絡手段ではない、日常生活において必要不可欠なものです。そんな時代だからこそ必要で有意義な、新しい形の助け合いだなあと感じました。

アマチュアの視点が都市を変革する！？

坂井信行

都市・地域プランニンググループ



かのジェイコブズは偉大なるアマチュア、関西風に言えば「どでらい（すごい）おばちゃん」だったとする論があります。

ジェイコブズとはもちろんジェイン・ジェイコブズ女史のこと。都市計画に関わる者にとつてはなじみの深い人物でしょう。最近、日本でも『ジェイン・ジェイコブズニューヨーク都市計画革命』という映画が公開され、話題になっています。この映画はドキュメンタリーではあります、ニューヨークのマスター・ビルダーと呼ばれたロバート・モーゼスという悪役にジェイコブズが果敢に闘いを挑む姿を描くという娯楽的要素もあり、一般向けとしても楽しめる工夫がされています。

彼女の著作で一番有名なのはいうまでもなく『アメリカ大都市の死と生』（1961年）でしょう。いわゆる、複数の来訪目的、短い街区、複数の年代の建物、十分な人口密度、という「アレ」（ジェイコブズの4大原則などと呼ばれています）を提案した名著です。50年以上も前に都市の



多様性に着目し、複雑系の考え方にまで接近した都市計画の必読書として、レターズの読者にもご存知の方は多いと思います。

ジェイコブズは学者でも技術者でもなく、おとなりさんにもいるような普通の主婦でした。都市計画に関してはアマチュアです。先の「アレ」は、自身が過ごした身近なグリニッジ・ビレッジの通りの様子を素直に観察する中から着想を得たもので、人並み外れた洞察力に支えられてはいるものの、それはアマチュアだったからこそ可能であつたといわれています。著書の中にある「安心して歩けるためには通りに住むおとなりさん」のよそ者を見る『目』が必要、というのもおばちゃんの発想かもしれません。

行政組織に所属し、巨大再開発や高速道路建設を進めようとするモーゼスとの闘いは市民活動的に進められ、その原動力となつたジェイコブズはまさに「どてらいおばちゃん」だったのではないのでしょうか。ジェイコブズはジェントリフィケーションを招いた、といった批判も一部にはありますが、スポンジ化、リノベーション、マネジメントなど現代の私たちの都市を取り巻くキーワードも、アマチュアの素直な視点で見直してみると新しいヒントが見つからないものではないのでしょうか。

大阪人に愛される商店街であり続ける 「なんば 戎橋筋商店街」

山部健介：

地域産業イノベーショングループ

アルパックでは、昨年度から大阪・なんばにある戎橋筋商店街の「商店街ビジョン」策定の検討をお手伝いしています。

近年、メディアを賑わせているインバウンド客の波は、戎橋筋商店街にも押し寄せており、エリアとしての「Namba（なんば）」の名前もインバウンド客に認知されるようになってきました。商店街の中にも、大型のスーツケースを引き、たくさんのお買物袋を抱えたインバウンド客の姿があちこちで見受けられます。

戎橋筋商店街の起源は古く、1615年に道頓堀川が完成し戎橋が架かってから、十日戎にお参りする道筋として発展しました。その後、幕末にかけて商店街が形成され、明治期・戦後以降も大阪を代表する商店街として発展を続けてきました。近年は、「観光地」や「繁華街」というイメージが強くなる一方で、長い歴史と伝統を持つ老舗も数多く立ち並んでおり、最新の「トレンド」と「伝統」が両立する稀有な空間が存在しています。

今回のビジョン検討での基本姿勢は、「いかに大阪人のお客様に愛される存在であり続けるか」ということでした。インバウンド客



有名な老舗の本店の店主らが直接手ほどきする（戎橋筋商店街ホームページより）

の急増など、商店街内外での環境変化に柔軟に対応しつつも、本質的に変えてはいけぬ姿勢を明確にしたいというものです。目先の事象だけではなく、5年・10年先を展望して、自分たちの立場（＝本質）を明確にすることは、あらゆる主体・場面で大切になってくると感じています。

戎橋筋商店街では、こうした本質に係る部分の活動として、2014年より春と秋に「体験博」というイベントを行っています。多彩な商店の魅力やならばエリアの魅力を、体験を通じて皆さまに知っていただくという、戎橋筋商店街ならではの祭りです。体験博は、大阪の本物の商いや人情に触れることができる魅力が満載です。皆さんも「体験博」に参加して、なんば戎橋筋商店街の本質に触れてみてはいかがでしょうか？

戎橋筋商店街ホームページ
<https://www.ebisubashi.or.jp/>

都心部での大規模マンションの立地を考える

橋本晋輔：

都市・地域プランニンググループ

近年の都心回帰の動きを背景に、大都市圏の都心部では大規模なマンションが増加しています。

神戸市でも、都心の商業・業務地である三宮駅周辺や元町駅周辺において大規模マンションが増加しており、震災前の平成2年と比較すると人口は約1.6倍に増加しています。本来、商業・業務地であるべき場所での居住人口が増加することが、都心にとって良いことなのか、都心として望ましい土地利用のあり方とはどのようなものなのか。神戸市では有識者会議を立ち上げ検討を進めてきました。

都心部における人口増加による問題として、東京や大阪では小学校の教室不足などの問題がクローズアップされています。神戸市の場合、それだけでなく、「市内で最も商業・業務機能

のポテンシャルが高いはずの三宮駅周辺を住宅地にしてしまっているのか、神戸らしさがなくなってしまうのでは」という強い危機感がありました。このため、居住機能は、基本的には抑制することが望ましいという結論に至りました。今後、土地利用の誘導をどのように進めていくかは神戸市で検討することになっていきます。

大都市圏では当面、都心回帰の動きは続きそうですが、にぎわい、インフラへの負荷、景観、コミュニティなど色々な角度から問題も出ています。一方で、都心に人が住むことにより活力が生まれるという側面もあります。それぞれの地域の特性や目指す方向性にあった、丁寧な対応が必要な問題であると感じています。



都心部に増加する大規模マンション

茨木市市民会館跡地エリアを「みんなで育てる広場」へ

戸田幸典：
地域再生デザイングループ

茨木市では市民会館跡地エリアを活用した施設の整備（2023年開設予定）に向けて、「基本計画」の検討が進められています。



広場編「情景ポスターセッション」

跡地エリア活用のキーコンセプトは「育てる広場」。アルパックは、この基本計画の内容と活用に向けた市民意識醸成につなげるため、キーコンセプトの実現に向けた市民ワークショップと、会館前人工台地を芝生化し、実際に使ってみる「社会実験」の運営をサポートしています。6月2日と7月8日に「施設編」「広場編」としてそれぞれ2回、約60名の参加者とともにワークショップを実施しました。

「施設編」は、整備予定の施設機能（ホール・子育て支援・図書館・賑わいの広場等）について基本計画に市民アイデアを反映することを目的に、施設機能をうまく組み合わせる過ごし方・使い方をストーリーをつくり、基本計画につなげる「物語ワークショップ」を実施しました。また、「広場編」は、社会実験での市民による企画や将来の広場の使い方を考えることを目的に、実際の広場周辺の風景の写真を使った「情景ポスターセッション」でありたい風景・過ごし方を共有し、社会実験での広場利用コンセプトと企画づくりのワークショップを実施しました。

秋には、ワークショップから見えてきた茨木市にあるいろいろな資源やコンテンツを活用した過ごし方や使い方をストーリーをもとにした「社会実験」企画を実施し、「暮らしの質を高める広場」づくりにチャレンジします。



施設編「物語ワークショップ」発表の様子

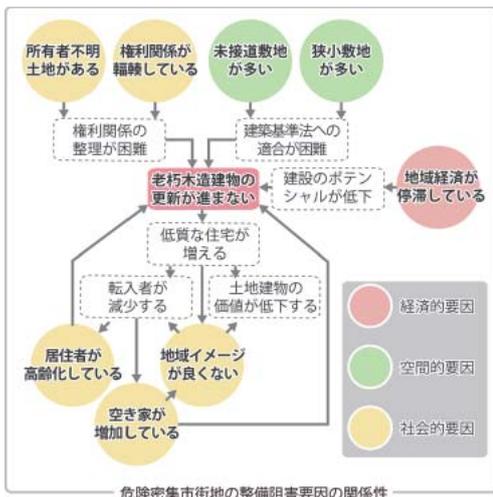
密集市街地のこれからの考える

中井翔太：
都市・地域プランニンググループ

密集市街地の改善は、古くからの市街地やスプロール市街地を有する都市において、かねてより研究・実践の両面から取り組まれている課題です。

アルパックでも、業務を通じて密集市街地の課題分析や改善の方策の検討に取り組んでいます。昨年度は、国土交通省国土技術政策総合研究所からの受託調査において、密集市街地の整備阻害要因に関する調査・分析を行いました。

密集市街地の整備阻害要因は、「経済的要因（地域経済の停滞）」や、「空間的要因（未接道敷地や狭小敷地が多い）」、「所有に関わる要因（所有者不明土地や権利関係の複雑）」といった根源的な要因に端を発し、居住者の高齢化、地域イメージの低下、空き家の増加といった社会的要因



危険密集市街地の整備阻害要因の関係性

会的な要因が相まって複雑化しているといえます。また、特に関西圏の都市では、密集市街地が広域に渡り分布していることから、事業ボリュームが大きく、ドラスティックな改善が期待できる方針を採りたいという状況も見られます。

密集市街地の改善は、市街地を評価する指標値（不燃領域率、地区内閉塞度等）の向上が至上命題となっています。今後、改善を促進するためには、前述のような状況を受け止め、単体では指標値の向上に至らないものの、その蓄積により一定の防災性が獲得できたり、地域の価値を高めることで市街地更新を促進するような「急がば回れ」の取組にも目を向けていくことが重要ではないでしょうか。また、そのためにも客観的な要因分析に基づく、改善に向けた戦略的・総合的なシナリオ構築が求められるといえます。

市街地は、個人の活動の積層により形成されます。これら改善に向けたシナリオとともに、各主体のメリットや役割を地域や事業者と共有していくことが重要なのではないのでしょうか。アルパックでも、引き続き、密集市街地の改善に関する研究を続けていきたいと思えます。

元銀行がフレンチレストランに



大阪工業大学林田研究室によって建物調査が行われ、林田先生にはデザイン監修も行っていただきました。特に、写真や文献の残っていた壁を利用した観光案内面がなかった正面ファサードについては、元銀行としての風格を残しつつ、フレンチレストランの玄関としてふさわしい意

山崎博央：

建築プランニング・デザイングループ

4月20日、桜井駅南に位置する伊勢街道沿いにある本町商店街にフレンチレストラン「le fredonnement（ル・フルドヌマン）〜櫻町吟〜」がオープンしました。

このレストランは、元々は「旧京都相互銀行桜井支店」として使われていたもので、大正時代（と推定される）に建てられた洋館のしつらが特徴的な近代建築でした。まちの資源でもあるこの建物をまちづくりに活かすため、地域の有志が出資者となり設立された「桜井まちづくり株式会社」が、建物をリノベーションしました。アルパックは設計監理のお手伝いをしました。

壁面に映し出されるプロジェクターの映像は、地域の観光情報のアピールにも貢献しています。ランチの営業もされていますので、桜井観光の折には是非足を運んでみて下さい。

耐震性能が不足していた木造建物を、外観意匠を変えずに耐震性を確保するため、建物内部に鉄骨で構造体を作り、荷重を負担させる改修を行いました。室内の意匠もできるだけオリジナルのデザインを残すことを心掛け、窓枠や格子、吹き抜け周りの手すりは既存のものの再利用です。

匠とするために、いくつものデザイン案を検討しました。

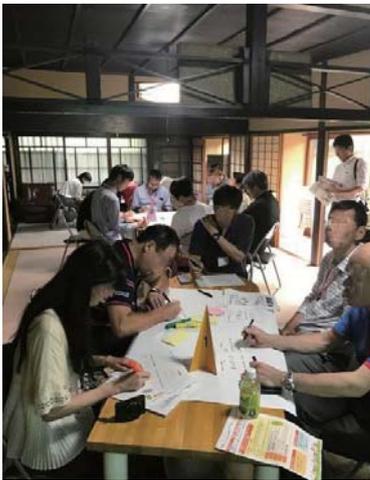


ファサード

「西京結び」～区民のアイデアで新たな活動を

嶋崎雅嘉：

地域再生デザイングループ



「西京結び」（京都市西京区）は、区民の夢や得意技、アイデア、人材を持ち寄って、「結び」ことで新たな活動を生み出そうという主旨で開催されるワークショップです。

アルパックでは、昨年度から運営のお手伝いをしています。昨年度は5回のワークショップを実施する中で、8つのプロジェクト・アイデアが生まれました。一つ一つのアイデアはまだ生まれただけですが、今後もしも変化したりつながったりしながら一歩ずつ実現に向けて進めて行くサポートをしていきたいと思っています。

今年度は参加者で「イベント」を企画して、一つの経験を積み重ねるなかで「実現したいこと」を考えるプログラムを予定しています。

6月17日に行われた第1回目の西京結びは、京都市内に唯一残る本陣遺構である榎原本陣を会場にお借りして実施しまし



会場となった榎原本陣

た。ゆったりとした時間の流れる歴史的な建造物の中で、西京区の未来や新しく生み出す活動について語り合うワクワク感の高まる素敵な時間となりました。ワークショップ後の交流会も会場そのままに打ち解けた雰囲気でも実施でき、今後の活動を具体化していくためによい時間を過ごすことができました。

また、交流会では参加者で構成されている「西京結び盛り上げプロジェクト」のみなさんご協力により、西京区ならではの食材として、「桂瓜のジェラート（中村軒）」「波み上げ湯葉（上田湯葉店）」「豆腐（永井の純とうふ）」「ごま油（山田製油）」「バゲット（オークフード）」などもそろえられ参加者みんなで楽しみました。第2回目以降、より具体的なアイデアを組み立てていくのが楽しみです。

ひょうご持続可能地域づくり機構 (HsO) 人材育成プログラム 第4期生募集中

畑中直樹:

サスティナビリティマネジメントグループ

本講座は平成27・28年度、環境省のモデル事業の採択を契機に但馬地域でスタートし、平成30年度から西播磨・中播磨地域でも開催することとなりました。

これからの時代に求められる事業づくりを学びます。

第4期生の募集内容は次の3コースです。

1 ひょうご持続可能地域づくりコース(持続可能地域土認定コース)〈1年間〉

○対象者: 地域課題を解決する新たな取り組み・事業をスタートしたい方

○定員: 20名程度

○開催場所: 兵庫県立大学姫路キャンパス及び姫路駅周辺等

2 環境スタートアップコース〈半年間〉

○対象者: 環境活動や環境学習に関心・意欲があり、そのきっかけや機会を求めている方

○定員: 20名程度

○開催場所: 兵庫県立大学姫路キャンパス及び姫路駅周辺、ひょうご環境体験館等

3 高校生・ユース短期集中コース〈2日間〉

○対象者: 持続可能な地域づくりに関心がある、高校生・大学生等

○定員: 但馬地域、丹波地域各30名程度

※ひょうご持続可能地域づくり機構 (HsO)

兵庫県、豊岡市、兵庫県立大学、養父市、朝来市、香美町、新温泉町、篠山市、丹波市、姫路市、相生市、赤穂市、宍粟市、たつの市、市川町、福崎町、神河町、太子町、上郡町、佐用町、(株)地域計画建築研究所(アルバック)、(一社)ひょうご持続可能地域づくり研究所 事業パートナー(豊岡商工会議所、豊岡市商工会、(株)但馬銀行、但馬信用金庫、NPO法人コウノトリ市民研究所、NPO法人暮らしのエコをすすめる但馬の会、姫路商工会議所、姫路市商工会、宍粟市商工会、(株)三井住友銀行、(株)みなと銀行、西兵庫信用金庫、但陽信用金庫)で構成

E-mail: office@hso-t.com
Tel: 06-6205-3600
Fax: 06-6205-3601

*受講希望者多数の場合は抽選
○開催期間: 但馬地域 8月20日(月)、8月25日(土) 丹波地域 8月21日(火)、8月26日(日)
○開催場所: ①但馬地域 豊岡稽古堂 ②丹波地域 丹波の森公苑
詳しくは左記申込み・問い合わせ先まで
※ひょうご持続可能地域づくり機構(HsO)事務局 担当: 戸田、中川、霜倉
(株)地域計画建築研究所(アルバック)内
ホームページ: <http://hso-t.com>
E-mail: office@hso-t.com



中川貴美子:

サスティナビリティマネジメントグループ

多彩で、癖になる、
韓国料理満喫

旅

たとえば、やはり「うまいもん」もかかせません。韓国の旅での「うまいもん」の一部をご紹介します。

安東河回村では、伝統料理(安東の特産品のチムタク(鳥の甘辛煮)、塩サバ定食を堪能しました。安東は海から離れていますが、日本にも鯖街道があるように、韓国でも、塩サバが届けられるようです。

光州では、韓国と言えは外せない焼肉、冷麺、独特な甘いお茶などを堪能し、翌日の昼食は、サムゲタンを。サムゲタンは、あっさりとした味で、大



チムタク(鳥の甘辛煮)



塩サバ定食



サムゲタン



案安邑城の朝の朝食



サービスエリアでゲットした、いちごがごもり

きな鶏をさらっと食べることができません。また、それぞれの食卓には、白菜、大根、高菜、海鮮・などの常時数種類の副菜がならび、辛いものから、それほどでもないものまで辛さもいろいろ。自分の好みのキムチを探すのも楽しさのひとつでした。そのほか、サービスエリアではかごいっばいのイチゴやお菓子など、日常の食に触れるのもおいしい体験でした。

普段以上に食べ続け、食も堪能した旅でもありましたが、案内の朴さん(本号特集執筆)の言葉どおり、ヘルシーな韓国料理で、無事(?)体重は変わらぬまま。暑い夏に、日本でも韓国料理屋さんを探してみたいと思います。

文化を活かすビジネスとセンス！

6月1日、改正文化財保護法が成立しました。今回の改正の特長は、地域社会総がかりで、総合的・計画的に、文化財をまちづくりに活かすこと及び、地方公共団体の首長が文化財保護行政に乗り出し強力に進めべく関係法の改正も行ったことです。

地域に根差したシンクタンク・コンサルタントたるもの、施策に追随するだけでなく、「半歩前へ」の精神で実践的に検証してみます。

時代相を映す施策・法令

法改正の特長は、都道府県レベルでの総合的な施策の「大綱」。市町村レベルでの総合的な「文化財保存活用地域計画」及びその策定への住民参加です。具体的には、計画策定・推進に、行政機関・学識経験者・商工会・観光関係団体プラス、文化財所有者・文化財保存活用支援団体で組織する「協議会」を規定しています。“高次広域計画と地域個別事業”を併せるのは原理に適っており、私達の経営基本戦略であり、実践的に習熟しています。

“小集団のアソシエイツ”で始まったアルパックは現在、専門のチーム、グループに進化し、それを統括する責任と権限が確立しています。いわゆる、鶴翼の陣、車懸り戦法です。

保護と計画づくり

和歌山大学での講義でも実践例を紹介しました。城崎温泉では住民がまちぐるみで国の文化財認定を進め、三条通では商店街振興組合が権利調整に乗り出し、京都府庁旧本館では「応援ネット」が行政組織と協働して新たな計画・運営機構を創り出しています。

地域のヘリテージ・マネージャー、教育委員会文化財担当者、そして文化庁担当者といった「プロ」のコーチとチームワークが必須でした。

事業者参加

古今東西「文化財」は地域社会集団や社寺が維持していきました。例えば「ため池」は、農耕に水と肥やしを供給し、“鯉上げ”といった行事が発展し、「行楽」が成長してくると料亭の鯉の養殖でお金が回るシクミが出来てきます。料亭・旅館は、設備産業です。借入・投資・償却・再投資がサイクルします。企業経営体を“かませる”ことで手がたく進めることができます。化学の触媒、幾何の補助線みたいなものです。

書画骨董、それぞれに個性ある文化財が蓄積されます。地域のブランドが磨かれます。これらの企業は巨大化する必要はありません。地域での「小集団のアソシエイツ」なのです。

継承と人材開発

地方公共団体に専門的知識・技術を持つ人材が不可欠です。しかし、文化財によっては建造物でも「庭園」があり、無形の資産まであります。条例制定もあります。

中核市・一般市町村までが、ライセンスを持つ職員を揃えるのは困難でしょう。人材を育てるのは「大学」との協働が不可欠です。コンサルタントもうかうかしておれません。アルパックは、「技術士」保持者で抜きこんでいたと思いましたが、JABEE認定が進み大学の役割が高まっています。

抜きこんでするには、二つ。技術士会など、職能団体に奉仕すること、哲学を論じること、武道或いは、茶道・華道、和歌・俳句・謡曲などの「素養」を深めること。

物事には光と影があります。“住民参加”は、ポピュリズムを招き、伝統的な作法や様式を失うおそれがあります。変革は「文化」から始まり、そこから社会進歩が進みます。カルチャーから始まった変革は、ファイナンス・ガバナンスへと進行中です。文化が先導し、経済が応援し、統治力がまとめます。それを導くのがコンサルタントの職能です。

丸井和彦：

適塾路地裏サロン実行委員

適塾路地奥サロンの開催

6月26日、近畿大学総合社会学部教授の久隆浩氏をお招きして、第1回適塾路地奥サロンを大阪事務所で開催致しました。まちづくりの制度化に至る経緯から「まちづくり」と「街づくり」の違い、これからのまちづくりの方向性まで、内容は多岐にわたりました。今後も継続



して企画していきます。なお、講演の詳しい内容を8月上旬にホームページにアップロード致しますので、ぜひご覧ください。

■適塾路地奥サロンとは？

21世紀に入り、地域を取り巻く課題はより複雑化、高度化しており、単純なハードとソフトの融合というツールだけでは解決できない状況となっています。

アルパックでは、今一度、多方面で活躍されている実践者や研究者の方々による具体的な活動や事業から「まちづくり」を見つめ直し、再定義し、「21世紀型の持続可能なまちづくり」のあり方等について、大阪事務所横の適塾のように「教えあい、学びあう」活発な意見交換を行いたいと考えています。

(適塾路地裏サロン実行委員長 中塚一)

近況 & イベントのお知らせ

新人紹介

街のよりよい理解にむけて



稲垣和哉
都市・地域プランニンググループ

はじめまして。7月から都市・地域プランニンググループに配属となりました稲垣和哉です。

大阪市阿倍野区のちんちん電車沿線で育ち、大学進学を機に8年ほど仙台で暮らしていました。仙台ではのんびりとした生活環境のもと、勉学・部活・恋愛と人並みに青春を謳歌してきました。アルパックでの採用が決まり、いざ仙台を離れることが現実になると、これまでの記憶が一気に蘇りとても感傷的な気持ちになりました。街への愛着というものはこういうときに強く感じるものなのだなど一つ勉強になりました。

そういうわけで久しぶりに大阪に戻ってきたわけですが、この8年間に大きく街の姿が変わっていることに驚きました。昔の思い出や風景を懐かしみつつも、変わっていくことを肯定的に捉え、これからの生活を新たに重ね合わせていきたいと思っています。

大学では、人々が都市空間をどのように使っているか、そしてその結果として街がどのように立ち現れているのかをテーマに研究をしていました。新しいテクノロジーやそれに付随するサービスが社会のあり方を大きく変えているなか、街での活動や体験はどのようなものになっていくのか、どうあるべきか、そのようなところに関心があります。最新の技術や周辺分野の動向に目を向けつつも、まずは街をよく歩き、よく観察し、よく話をして感性を磨いていきたいと思っています。

右も左も分からない状態ですが、一つひとつ目の前の人たちや地域に向き合いながら、その道中で何か真理らしきものを拾いつつ、街に対する理解を深めていきたいと思っています。これからどうぞよろしくお願ひします。

地震体験記

6月18日に発生した大阪府北部地震で被害に遭われた皆様には、謹んでお見舞い申し上げます。

杉本健太郎

建築プランニング・デザイングループ

都市直下地震、交通網の遮断で体験したこと

6月18日の大阪府北部の地震が発生したとき、私は、家を出る前で身支度をしている最中でした。出社しようと駅へ向かうと、地下鉄は止まっており、運行再開には時間がかかるとの説明の後、入口のシャッターが下りてしまいました。

どうすることもできず、しばらく自宅で待機していましたが、午後になっても地下鉄は全く動きそうにありませんでした。大きな余震もなく、まちづくりに関わる者として、非常時のまちの様子が気になったため、会社に向かいながら現在の状況を把握しようと思いました。しかし、タクシーを捕まえることができず、バスを待っても全然来ませんでした。

残る交通手段は一つ。歩いて会社に向かうことにしました。靴をランニングシューズに履き替え、コンビニ

でスポーツドリンクを購入し、まだ引っ越して間もないため、スマートフォンのマップを頼りに歩きました。

当たり前の話ですが、普段、車窓から眺めている景色がとても遠く、移動時間と距離の感覚が、実際のスケールよりも大きくずれていることを改めて認識しました。新淀川大橋を渡ったときは、橋の長さに加えて、橋へのアプローチ、橋へ上がる階段、歩道の幅など、歩行者にやさしくないと思いました。スーツケースを持った人など大勢の人が、列をなして橋を渡る姿は、平常時では見ない光景でした。

歩いて一時間半以上かけ、やっと会社に着いたと思いきや、ビルのエレベーターが停止しており、歩いて10階まで上りました。横にも縦にも、とにかく歩いた一日でした。



芙蓉台と呼ばれる高台から眺めた河回村

松下藍子：

都市・地域プランニンググループ



風水により計画された村 韓国の歴史的集落河回村と樂安邑城

4日間で韓国の国土のおおよそ半分を大移動しながらの旅、その中で韓国中央部に位置する安東市河回村と、南部に位置する順天市樂安邑城に行ってきました。

両村とも元々農業を主要な生業とした集落であり、伝統的な家屋や景観がよく残ることから、現在は多くの観光客が訪れる韓国を代表する歴史的集落です。

この集落は、いずれも風水の考え方を取り入れて計画されています。

最初に行った河回村は、四方を山と大きな川で囲まれた、広々として自然の力強さを感じる眺め。瓦葺と藁葺きの伝統家屋と伝統的な生活文化がよく残っていることから、ユネスコの世界遺産に登録されています。風水では、集落に対する山や川の方向が重視されることから、家屋の向きが一方方向になっていないという特徴があるようです。集落の中央部には大きなご神木があり、ここで重要な祭事が行われます。集落内を歩くと、ほとんどの家屋の門戸には縁起のいい文字が書かれた札が貼られ、人々が日々の暮らしの中において、伝統的な思想を大事にしながら暮らしているのだと感じました。



河回村の集落の中央部にある神木



河回村の家屋の門戸に貼られた札

取り入れられて計画されたようです。広辞苑では、風水は、「1. 吹く風と流れる水。2. 山川・水流などの様子を考え合わせて、都城・住宅・墳墓の位置などを定める術。特に、中国や李朝鮮では墓地の選定などに重視され、現在も普及。風水説。」と書かれています。つまり、吉凶をみるという意味を強く捉えていましたが、根源には、周辺環境を読みとりながら、その関係をいかに結ぶかということがあるのです。

韓国では、今も都市計画の際には風水師を呼び、風水の思想を取り入れる事例があるそうです。経済性や利便性を最優先に求めがちな現代において、自然に反することなく、よりよい関係を結ぶ風水の考え方は、暮らしの豊かさを実現する根本的な考え方として大切にしていけるべきものだと感じました。



「レターズアルパック」は、ホームページからもご覧いただけます。

アルパック (株) 地域計画建築研究所

Architects Regional Planners & Associates・Kyoto
<http://www.arpak.co.jp> E-mail: info@arpak.co.jp

本社・

京都事務所 〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町82 TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764

大阪事務所 〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7 日本生命今橋ビル10F TEL(06)6205-3600 FAX(06)6205-3601

名古屋事務所 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-27-2 日本生命笹島ビル17F TEL(052)462-1030 FAX(052)462-1061

東京事務所 〒102-0074 東京都千代田区九段南3-5-11 スクエア九段ビル1F TEL(03)3288-0240 FAX(03)3288-0221

九州事務所 〒810-0802 (株)よかネット:福岡市博多区中洲中島町3-8 福岡パルビル8F TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128

この用紙は「びわ湖の森を元気にする」
Kikitoペーパーを使用しています。